

〔優秀賞〕

## ◇ 性別について考えること ◇

石塚小学校 5年 吉井 爽代可

「女子って手先が器用だよな。女子はほとんどきれいにぬえているけれど、男子はグチャグチャになっている。」

家庭科のソーイングの授業中、一人の男子がつぶやきました。私はその言葉にとってもおどろきました。なぜなら、私は自分のことを器用だと思ったことはないし、5年生になって家庭科が始まって楽しかったので、一生けん命針をチクチク動かしているだけだったからです。「女の子でも不器用な人はいるし、男子にだってき用な人はいるよな。」と心の中で思ったし「器用とか不器用は男子・女子のちがいでではなく、個人のちがいでないのかな。」と思いました。

私の両親は仕事をしています。父は工場につとめていて夜さんもあります。そんな時は父が料理をします。私は父の作った目玉焼きがトロトロで大好きです。妹は父の焼くウインナーはこげがないので、一番好きと言っています。祖母が

「ちょっと前まで、家の仕事は女の人がするものだと言われていたんだよ。それにね、男子ちゅうぼう（台所）に入らず、って言葉もあるんだよ。」

と教えてくれました。でも、私は祖母の話を聞いてちがうような気がしました。「女の人だから家のことをしなくてはならない、じゃあ男の人は…。それは男の人だから、女の人だからと性別で決めることではないのではないか。」と思いました。私は、両親のように二人とも仕事をしていたら、話し合っ

て分ければいいのではないかと考えます。

家族でテレビを見ていたら、男の人が楽しそうに料理をしていました。テレビにうつった料理はとてもおいしそうで、小さな子どもたちもおいしそうに食べていました。母が、「きっとこの子ども達も小さいころからお父さんの料理を見ているから、大きくなって自然に料理するようになるね。」と話していました。

私は今、小学校5年生ですが、男だから女だからということではなく、個人個人のちがいを大切にしていきたいです。それを土台にして、個人のとく意や不とく意を考えて、みんなで協力し合って生活していきたいです。今の内からこんな風に考えていけば、大人になってからも性別のちがいでではなく、一人一人を個人として見ていけると思います。

「人はいろいろな感じ方や考え方をするから大変だよ。」

と、祖母に言われました。私はまだ分かりませんが家族があって仕事をする集団があって地いきがあって、そこにはいろいろな人の集まりがあるということなのだろうと思います。年れいも様々です。ですが、今の思いをわすれずにすごしていきたいし、自分と相手のちがいを大切に協力し合える大人になりたいです。